

【人物評伝】

G.W. ボールデンのその後 — 御殿場時代雑記

岩田 翯

南北バプテスト連盟の合併

「西南学院七十年史」に G.W. ボールデン (George Washington Bouldin, 1881-1967、享年86歳) が初めて登場するのは、1906 (明治39) 年10月、25歳の時で、C.K. ドージャー (Charles Kelsey Dozier, 1879-1933、享年54歳) や J.H. ロウ (John Hansford Rowe, 1876-1929、享年53歳) の三家族が福岡市大名町96番地の宣教師館に入り、12月11日に「在日宣教団」に入社したとあるので、その頃、来日したと思われる。

その後、1909 (明治42) 年5月6日、東京神田三崎町にあったバプテスト会館で、日本浸礼教会の第10回組合総会が開催され、その総会で、福岡バプテスト神学校 (1907年開校) と横浜バプテスト神学校 (1884年開校) の両神学校を合併する第3号議案「南北両神学校の合同を宣教師会に建議する件」が提出された。提案者は石川保五郎 (1901年、横浜バプテスト神学校の卒業生、水戸出身) で、その提案理由は、「時代の要求と人物の融通と、維持費の経済なるとは、合同の必要を迫り来れること、諸君のすでに十分知悉せらるることと信ず。敢て本案の通過を望む」とある。人物の交流とバプテスト神学校の経営が南北両方にわたっていることは不経済であるという主張である。この総会は東京神田三崎町のバプテスト会館で開かれた関係から、代議員出席者52名中、関東地方からの出席者は44名、西南部会からの出席者は8名にすぎなかった。長府教会 (山口県下関市長府) の千葉勇五郎 (1907年10月から福岡バプテスト神学校長、南北合併後の1911年3月から日本バプテスト神学校長) が議長を務め、両神学校の合併は圧倒的多数で可決された。

西南部会の福岡教会から佐藤喜太郎、G.W. ボールデン、蓮尾蓮乗が出席していた。ボールデンが南北合併に賛成したか反対したかは明らかでないが、1910年5月3日から福岡浸礼教会で開かれた第8回西南部会では、福岡バプテスト神学校が廃止され、東京に移転することに反対意見が多く、東京で開かれた第10回組合総会に出席した福岡教会の蓮尾蓮乗から「南北神学校問題無期延期の件」の議案が提出された。無期延



二の岡ハムの芹沢正策に贈られたボールデン夫妻の署名入り写真

期論や合併尚早論などが賛成19名、反対3名の圧倒的多数で可決され、南北神学校の合併は西南部会では極めて不評だった。しかし、1910年6月8日から10日まで、有馬（神戸市有馬）で開催された第11回総会で西南部会の荒瀬鶴喜（福岡浸礼教会代議員）が第15号議案として「南北神学校合併無期延期の件」を提出した。その内容は、「種々の事情ありて実行困難なるにも拘らず、第10回総会に於ては、咄嗟の間に決議されたり、機^かの熟するまで延期を望む」と提案した。しかし、この提案は議論沸騰したが、代議員45名中（西南部会の代議員12名）、荒瀬の提案に賛成した人は18名、反対者は27名で否決された。こうした紆余曲折があったが、同年10月12日、日本バプテスト神学校が東京小石川区表町109番地の仮校舎で開校され、在校生21名（本科生4名、別科生16名、選科生1名）が在学し、横浜バプテスト神学校から11名、福岡バプテスト神学校から6名が転校した。日本バプテスト神学校は南北連合神学校で、将来、連合基督教大学の建設を目標とした。しかし、合併した日本バプテスト神学校の運営は思わしくなく8年間の間、校舎らしい校舎もなく、校長もボールデンを含めて6人も交代し、寄り合い所帯を脱却出来なかった。1915年5月に連合基督教大学の構想を断念し、さらに1919年3月、日本バプテスト神学校も解散した。

しかし、こうした経過のなかで、両バプテスト間にあった伝道区域制限が自然消滅し、南部バプテストは1911年5月5日に、東京小石川区西原町39番地に南部バプテストの講義所（のち小石川バプテスト教会）を設け、東京での神学教育と伝道の拠点とした。ボールデンはこの運営に深く関わっていた。ボールデンにとって一番の悩みは、九州各地から上京する南部バプテスト派の会員や学生達が、この小石川バプテスト教会に参集しないで、他教会に転会してしまうことであった。ボールデンは上京学生の

先輩格である熊野清樹や天野栄造と相談するため、二人を大久保の自宅に招き、二人はボールデンに学生宿舎を建設することを提案した。その結果、1922年に小石川区駕籠町58番地に新教会、幼稚園、駕籠町学舎（学生寄宿舍）などを建設した。

別荘の地、二の岡

長々と南北バプテスト派の合併問題について述べてきたのは、単にバプテスト合同問題について関心があったわけではない。周知のようにボールデンは静岡県駿東郡御殿場町二の岡荘（通称アメリカ村）を建設した人物である。既述したようにボールデンが福岡に着任したのが1906年であり、その後、1910年10月、日本バプテスト神学校の建設、運営に深く関わっており、また、1922年竣工の小石川バプテスト教会や駕籠町学舎の建設なども成功させた。

ボールデンは福岡（博多）と東京の間を何十回か往復したことであろう。現代の交通事情と違って先ず博多から門司まで九州鉄道を利用し、関門海峡を連絡船で渡り、下関から山陽本線、東海道本線に乗り換えて東京に至るのである。1934年12月に丹那トンネルが開通するまで沿津、国府津間は山側の現在の御殿場線を走行していた。海拔450メートルの御殿場は富士山麓にあり、「鉄道唱歌」（東海道編・新橋－神戸間を66番、補作・大和田建樹、作曲・多梅稚^{おおのうめわか}）には次のように歌われている。

15番 こそぞ御殿場夏ならば
われも登山をこころみん
高さは一万数千尺
十三州もただ一目

とある。御殿場は眼前に雄大な富士山の山容を見すえる高冷地で、夏は絶好の避暑地で、すでに有名人や外国人の別荘地として開発されていた。後年、大女優となった東山千栄子（本名、河野千、1900年生－1980年没、享年80歳）は、この地に魅せられて、この地の大字名（東山）を芸名として別荘を構えたほどである。

ボールデンが博多と東京を往復するうち御殿場に愛着を感じ、その地二の岡に別荘をつくったのは1907年と記録されている。地域的には箱根外輪山の麓の二の岡や東山が主たる別荘地域であった。

1917年7月29日付の御殿場町二の岡、内海信昭が御殿場町長・勝亦国臣に宛てた「大正六年亜米利加（アメリカ）村の起源に関する答申」がある。その資料によると1891年5月、横浜市元居留地百番の英国人バンテング（植物商）が高山植物採取のため箱根山中に入り、道に迷って困却していたところ農夫・芹沢幸蔵に会い、芹沢の道

案内で二岡神社にやって来た。二岡神社（当時は郷社）の山林や二階建ての養蚕室を見つけ、バンテングは借入れを神職の内海氏に申し入れ契約した。

その年の7月からバンテングは家族をともなって夏季休暇を過ごした。イギリス人、アメリカ人客数が数十人に及び、その中にアメリカ人レーマンがいた。レーマンは1897年、土地を借入し、家屋を建築して「亜米利加村」を設立することを構想し、アメリカ村の起源となったという。

ハムやソーセージを伝来

1917年現在で、外国人家屋は31軒あり、一定地区内に居住し、地元日本人住宅と雑居しないこと、また、清潔な飲料水の供給とともに周辺農家が人糞肥料を用いないことなどを協定している。1961年の「二ノ岡荘成立事情」によるとアメリカ村は1890年以来の歴史をもつが、初め二岡神社境内に始まり、二岡神社神職、内海家の経営する「山のホテル」にキリスト教各教派の外人宣教師が滞在していたが、1907年にボールデンが到来してからアメリカ村構想は一段と発展した。

この土地を確保出来たのは、「昭和十六年二ノ岡荘組合同規約」によれば、

「第三条 本組合ノ財産左ノ如シ

一、大正七（1918）年頃ヨリ故子爵福岡秀猪氏（子爵・福岡孝弟の子孫）ノ名義ヲ以テ帝室林野局ヨリ賃貸セル第二条記載ノ土地五町二反歩ノ借地権（御料林）」となっている。この地域がアメリカ村の範囲となったのであろう。少し後年の1933年4月27日と5月1日の2回にわたりボールデンは御殿場町二枚橋の勝又よ一と勝又栄作から2反5畝の「御料地借地権譲渡証」を受けている。その場所は明確でないが、推測するところボールデンが豚や七面鳥などの飼育のために必要となって所有したものである。

ボールデンは1918年頃から、宣教師のハーフォードやアレキサンダーらと二ノ岡荘内に次々と家屋を建設し、26戸に達し、クラブハウスや礼拝堂、村内の道路、水道、電気、外燈、プール、その他諸施設の共同管理をして、アメリカ村というビレッジ（共同社会 community）を作り、一年任期で村長を互選していた。日曜日には村内の教会で礼拝、音楽会、競泳会、日曜学校、ピクニックなどの楽しい行事を催し、また、毎週のプール掃除、道路工事など当番制で奉仕活動が行われた。ボールデンは、1932年7月に西南学院第3代院長を辞任し、また夫人 M.L. ボールデン (Maggie Lee Bouldin) は西南学院の付属、舞鶴幼稚園の第6代園長を辞任し、夫人の母を伴って御殿場の山荘に移転した。ボールデンは年間居住者となり、土地の男女青年層に伝道



アメリカ村の小さな教会。ポールデン時代に作られたが戦時中廃屋となり、戦後アメリカ軍の従軍牧師の援助によって再建された。日本で最も小さい教会と思われる。

するとともに、ハムやソーセージの製法、トウモロコシやトマトなどの育成、鶏や七面鳥の飼育、西洋式家具の製法などを指導している。

現在、二の岡荘の管理者である鈴木功夫氏（1921年3月生、86歳）は二の岡（東田中）の出身で、御殿場尋常高等小学校を卒業し、1933年から35年までの2年間（12歳から14歳まで）ポールデン邸の農事手伝いを行ったという。日当は50銭で、山羊、豚、七面鳥などを飼育したり、ポールデンから西洋家具の製作も教わった。当時、ポールデン邸の二階には山手女学院（現在のフェリス女学院）の生徒30人ほどが夏季学校で滞在していた。

ハムやソーセージを作るためには養豚を盛んにせねばならず、ポールデンは「二の岡養豚組合」を作り、ポールデン自身も20～30頭の豚を飼っていた。最初のハム作りは勝亦孝平、鈴木定次、森島宇三郎らが行い、芹沢正策は帳簿係として働いた。工場は鈴木定次（アメリカ村入り口）の敷地内にあり、隣光舎と称したが、ポールデン帰国後は、この工場は芹沢正策の敷地に移り、現在まで「二の岡フーズ」としてポールデンの技術を伝え、盛況である。

また、ポールデン邸のあるアメリカ村の近辺に1931年8月24日午後1時から「二の岡橋」の開通式が挙行された。堀内県議、稲葉町長、大庭御殿場小学校長はじめ避暑中の各界の名士が出席している。地元の芹沢淳（御殿場町助役）の挨拶に始まり稲葉町長、松本蒸治（法学博士）らの挨拶に続いて、ポールデンも祝辞を述べている。こ

の開通式に出席した外国人は5人であった。

ボールデンはこのように地域社会の人々と同化しようと努力していた。「北駿郷土雑誌 富士山」の1936年3月15日発行の第29号には次のように述べられている。

「二之岡別荘地万国村の草分けでもあり村長でもある米国神学博士・文学士ジョージ・ワシントン・ボールデン（54歳）氏の送別会が酒ぬきながらいとも和やかに行はれた。同氏は六尺三寸と云ふ長軀瘦身の持ち主で、日露戦争直後の明治三十九年神学校の講師として来朝、その翌年から秀麗フジヤマに憧れて、御殿場に居を構へて二十九年目、その間米本国のパニックに依り所属伝道所からの送金が絶えてからは日本永住を決意し、関東学院、沼津商業その他で教鞭をとる傍ら、村人を集めて養豚を進め、加工場を設けてハム、ベーコン、ソーセージ等の製法を授けたり、或は教会を設けて信仰に導いたり、同志を糾合して壹万五千円を投じ倶楽部を作つて毎年二百余人の外人避暑客を誘導したり、土地に起る冠婚葬祭は勿論入退営の送迎まで欠かさずやるといふ親日の徹底ぶり、内外人の信望を一身に集めた（後略）」

ボールデンの帰国

この資料においてボールデンの御殿場二の岡アメリカ村（万国村）における生活の様子、地元民との親睦の様子が活写されている。さらに、次のようなエピソードがある。

ボールデンは長身瘦軀の人で、6尺3寸（1m91cm）ほどであったが、ボールデンに身長を尋ねると、「5尺13寸だ」と言つて周囲の人々を笑わせたと言う。これにはボールデンの二重のユーモアが込められている。

御殿場市二の岡在住の鈴木功夫氏（前出）が一枚の貴重な写真を保存している。当時のクラブハウス（現在の恵泉山の家）の前で、「送ボールデン先生〇〇（二字不明）」という大きな幟旗のぼりばたを立て中央にボールデン、ボールデン夫人の母親、ボールデン夫人、その左右に町長、学校長、警察署長、駅長と思われる人々から60数人の記念写真である。

一方、1996年3月に御殿場市教育委員会から発行された「文化財のしおり第28号 御殿場の別荘」P19に二の岡区史編纂委員会の調査の結果、次のような文書（案内状）が発見されている。

「拜啓 嚴寒の御益々御多祥の段奉賀上候。

陳（のぶれ）ハ当地御在住の外人ポールデン先生近かく御帰国被成候二付、二ノ岡ノ区民相謀り聊か（いささか）左記ニ依り送別会相開くべく計画致候間、御多忙中誠ニ恐入り候得共、御差繰り御臨席被下度此段御願ひ申上候

左記

一、日時 三月一日午後二時

一、場所 ニノ岡クラブ（西洋人の別荘地内に有り）

一、追て先生を中に入口（1字不明）一同撮影致候て、其の写真を先生に送呈致度に付き、何卒右時刻迄に御参列相願度候

拜具

昭和十一年二月二十六日

御殿場市二ノ岡

芹澤 淳 芹澤 正策
内海 庄平 芹澤 力（藏）
内海 耕造 井上 恒太郎

殿



1936（昭和11）年3月1日のポールデン夫妻、夫人の母親を送る送別会の記念写真。御殿場の有力者や村民らが参加し、酒拔きの和やかな会だったと伝えられている。背景の建物はクラブハウス（現在の恵泉山の家）で1万5千円の浄財によって建築され、200人ほどの外国人が利用した。

となっている。この送別会の案内状と前ページの写真は符合する。

ボールデンは南部バプテスト神学校の卒業生であり、南部バプテスト連盟から宣教師として日本に派遣されてきた。西南学院の学内紛争のため、すでに西南学院を離れ、御殿場に居住していたボールデンに対し、1936年の日本バプテスト西部組合はボールデンを宣教師として起用することを決定した。日本の権益下にある「満州国」への布教を指示したが、この決定はボード（外国伝道局）の反対にあって実現しなかった。しかし「岳麓ニュース」（「富士」第4年3月号 1936年3月15日発行）によれば、ボールデンは同年3月10日午後零時27分の列車で御殿場駅を出発したと伝えている。

もう1枚注目すべき写真がある。日付けは「昭和11年1月12日 講習会」とあり、場所は御殿場農民福音学校高根学園である。この農民福音学校は賀川豊彦（1888年生－1960年没、享年72歳）が御殿場地方の青年層の懇請に動かされて、1930年8月12日に立体農業の実験場として創設している。御殿場という富士山東麓の高冷地農業は、稲作、畑作のみの単作農業では貧困状況は解決出来ず、賀川はキリスト教精神にもとづき、デンマーク式の農業経営を参考にしながら農繁期の託児所（保育所）を設け、畜産や椎茸栽培など複合的農業経営によって農村不況を打開しようとした。賀川は1932年ごろからアメリカの友人に依頼してハムやベーコン製造者派遣を依頼したりしたが、地元の青年、勝又喜六（小山町一色）を東京農大講師の大木市造のもとに約2年間実習に派遣した。1934年12月に学園内に「御殿場養豚加工組合」を立ち上げ、商



1936（昭和11）年1月12日、御殿場農民福音学校
高根学園の講習会の記念写真

標を「富士」として販売を開始した。ボールデンと賀川は、産業伝道の立場から思想、実践において共鳴していた。1923年9月28日には、賀川豊彦が西南学院を訪問しているし、賀川の提唱した「神の国運動」にも参加している。特にボールデンと賀川は御殿場近郊にあって、農村の産業伝道について一定の交流があったであろう。前ページの写真は1936年1月12日にボールデンが農民福音学校高根学園を訪れ、学園の18人の青年達に講習を行った写真であるが、どのような内容の講習であったかは不明である。この訪問はボールデン家族がアメリカに帰国する直前の写真である。

戦時中のアメリカ村

アメリカに一旦帰国したと思われるが、翌1937年から1941年までは横浜ユニオン・チャーチ (English Speaking Union Church) の牧師として務めたと「西南学院七十年史」上巻367ページに記されているが詳細は不明で、御殿場を中心にして活動したと思われる。

1941年2月にワシントンで、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オランダの4カ国が会談し、太平洋防衛についてA・B・C・D包囲陣が強化され、日米戦争の場合の共同作戦が決定され関係が悪化した。親日家であるボールデンやアメリカ村にも官憲の警戒が厳しくなり、ボールデンは帰国を余儀なくされた。日米戦争開戦の1941年8月16日、ボールデンはアメリカ村の譲渡を決意し、恵泉女学園 (河井道)、横浜・山手女学院 (フェリス女学院、都留仙次)、横浜・捜真女学校 (坂田祐)、その他、伊藤多度作、谷富子、森久保寿ら日本のキリスト学校や教徒に委譲してアメリカに帰国した。帰国時にあたり、「二ノ岡組合規約」を定めて権利関係を明確にしている。

ボールデン夫妻がいつ帰国したか明確な日時は不明である。もし、この1941年8月16日の「二ノ岡組合規約」を確定した以後とすれば1941年10月15日、横浜港出航の龍田丸、10月20日出航の氷川丸などが考えられるが不明である。乗船名簿が残されていない。アメリカに到着し、テネシー州アッシュランド・シティに向かった。なお、蛇足ながら西南学院第7代院長の河野貞幹 (故人) の遺品中にボールデン愛用のトランクが保存されているという。アメリカスタイルの頑丈なトランクで、ボールデンの何回かの日米航路の往復のため使用され、御殿場アメリカ村別荘にも持ち込まれた遺品であろう。

典様（西南学院大学神学部卒業生）から貴重な資料を提供していただきました。御礼申し上げます。

追記

なお、『恵泉女学園五十年の歩み』（1979年11月3日発行）に、「御殿場に山家」（P150）と「恵泉の山家びらき」（P153）があり、アメリカ村の譲渡について記述されている。